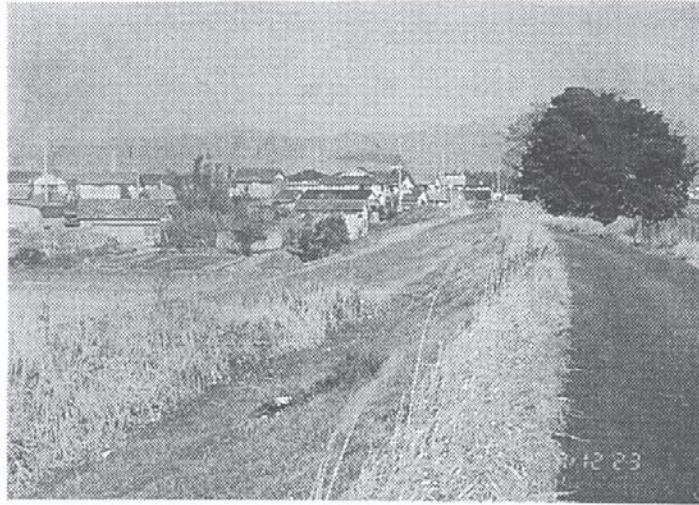
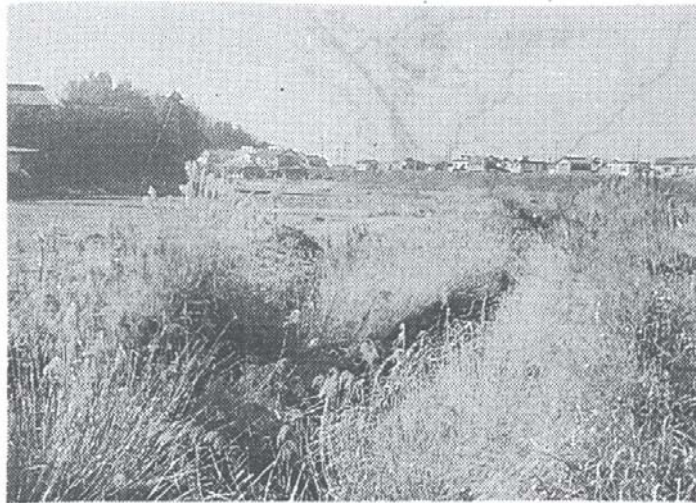


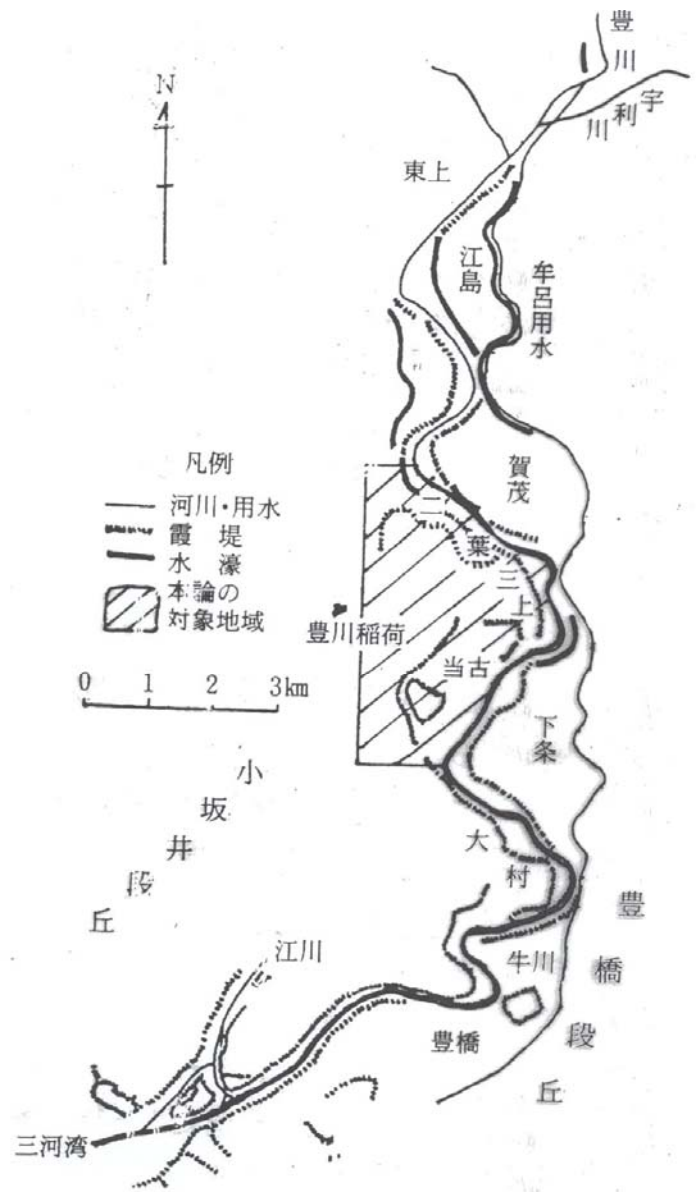
第3図 豊川下流域における遊水地への「差し口」の分布 (1899年)



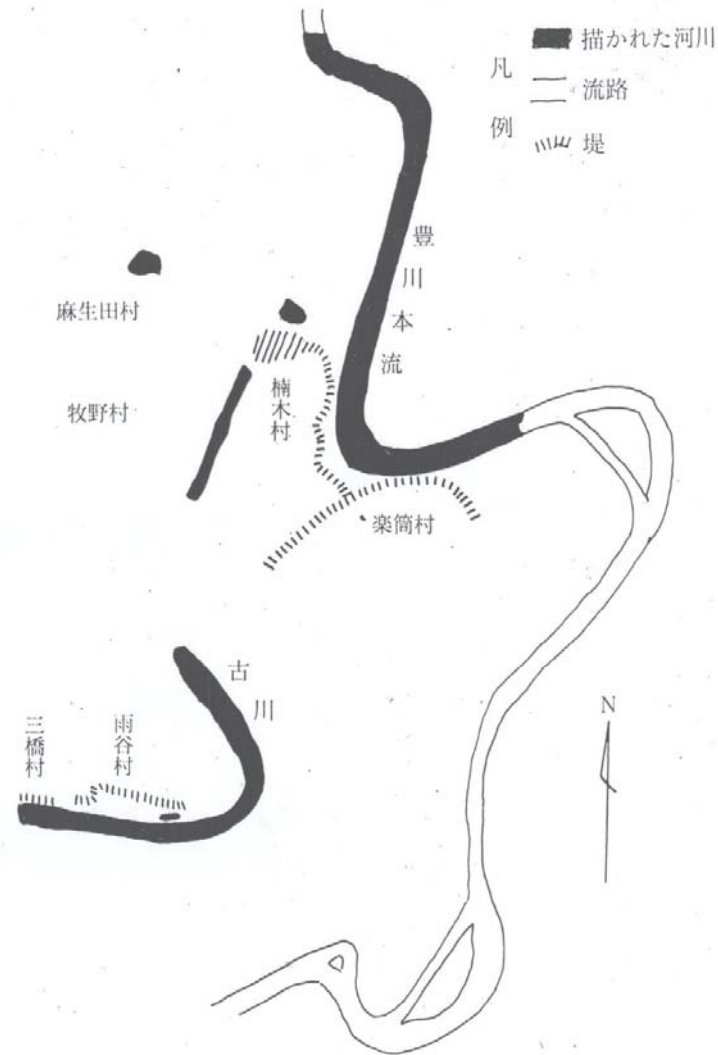
〔写真3〕 古川右岸の霞堤の一部。堤の上部は道路に利用されている。左側は堤内地の瀬木。



〔写真2〕 中央部古川の逆流で最初に浸水する院ノ子(左側)。竹林に以前の囲堤の名残がみられる。正面は古川右岸の堤で、その向うは瀬木の住宅団地。(1997.12)



第1図 明治23年(1890)における豊川下流の霞堤
 と水濼分布と本論の対象地域
 (地形図および現地聞きとりにより作成)



第12図 元禄2年(1689)豊川下流右岸の囲堤分布
 (元禄2年本野ヶ原争論裁許絵図より作成)

(注) 楽筒村より下流の本流沿いは絵図に含まれていないが、絵図の表現からみて、楽筒村から東西に伸びる堤はさらに伸びていたとみてよい。